

朗読劇

武蔵野台地の夜明け

川崎平右衛門

かわさき へいえもん

～小金井の300年前のまちおこし～

朗読劇の観賞と懇談会

平成24年2月4日(土) 午後2時開演

会場 NPO現代座会館(緑町5-13-24 裏面の地図をご覧ください)

会費 1000円

主催 NPO現代座 (TEL:042-381-5165)

NPO法人シニアSOHO小金井 (TEL:042-402-2249)

問合先: 上記電話またはinfo@sskoganei.org

小金井の基礎を築いた川崎平右衛門について学び、川崎平右衛門の演劇を作る「川崎平右衛門プロジェクト」を2010年からNPO現代座とNPO法人シニアSOHO小金井の協働で行っています。

先般、小金井市立第3小学校PTAの「おはなしかいカラフル」からNPO現代座に第3小60周年記念イベントへの出演依頼があり、「川崎平右衛門プロジェクト」で朗読劇のオリジナル台本を作り、11月19日にNPO現代座による三小60周年記念特別公演を行いました。

公演は、お子様にも父兄にも大好評でした。今後、この朗読劇を舞台劇に発展させる計画です。

今回、皆様に朗読劇をご覧いただいた後、川崎平右衛門を題材にしたまちおこしに関する懇談会を開催します。皆様のご来場をお待ちしております。

今、何故川崎平右衛門か

300年前の武蔵野は不毛の台地で、農民は度々飢饉に襲われていました。川崎平右衛門は、現在の東小金井4丁目一帯に栗林を作り、飢えに苦しむ人々を助け、武蔵野台地の新田開発を自らあみ出した経済的手法により農民を助けながら成功させました。その際、玉川上水の堤に桜を植え、小金井は江戸から多くの人々が訪れる桜の名所となりました。新田開発の業績を認められ、頻りに洪水に見舞われていた美濃国の治水工事を命じられました。この難事業も成功させ、さらに石見銀山を復興させました。石見銀山が世界遺産に指定されたのは川崎平右衛門のお陰と言われています。いずれの大事業も自から考案した独創的手法により人々の生活を大事にしながら最小限の資金で成功させました。川崎平右衛門のやり方は、今の時代にも通用するものです。川崎平右衛門から学ぶことが沢山あります。